# 自治体改善の輪 通信 2021 No14

## 《8/29(日)　第１回つながり研究会開催》

### 地域や組織の課題解決にむけた「つながり」を大切に

### 《「点」と「点」を繋いで「線」にする第一歩》

この「つながり研究会」では、地域や組織の課題を解決するために「点」であるあなたが組織内の幹部、部局、組織の外の人「点」にアプローチし、つながって「線」をつくり、経営改善を起動する取組を各々の実践者とともに、研究します。

私たち自治体職員は、ひとりで良い仕事をすることは不可能で、詰まるところ「『つながり』を大事にすることが大切なんじゃない？」という気付きから、まずは、私たち自治体改善マネジメント研究会の理事を担っている自治体職員がスピーカーとなって話題提供し、対話しませんか？という、研究とは言え、堅苦しくおこなうのではなくリラックスした雰囲気で、オンラインでの「つながり」の場を設けました。

### 《第１回テーマ「応援してくれる上司とのつながり方　～スポンサーをみつけよう～」》

ナビゲーター：東 克宏さん(大阪府大東市政策推進部長・特定非営利活動法人自治経営理事長)

プロフィール：財政課長や戦略企画部長を経て現職。首長の参謀として総合計画・総合戦略及び組織ガバナンスなどを所管。全国初の「公民連携に関する条例」の制定等、市営住宅建替を契機としエリア価値の向上をめざす「MORINEKI」プロジェクトなどを推進

#### 《上司、首長、議会、民間とつながるための心得》

お話のポイント：

・これまで取り組んできた事業、プロジェクトにも触れながら、首長や議会とのつながり方についてお話する

・行政組織にたずさわり約 30 年
・改革に立ちはだかる壁に対し
・個人として、管理職として、誰とつながり
・どう壁を突破してきたかお話する

・元々大東市の出身でもなく、今も在住ではない立場で、行政職員としてやっていくために地縁血縁を打ち破っていくことが自分のモチベーションになっていた

・入庁以来
・法令至上主義
・補助金獲得第一
・公務員の中ではありがたがられる役を担ってきた

・一生懸命やってきたが、人口減少の続く大東市の状況は好転していない
・徒労に暮れ転職を考えた

・没個性化していた状況の中で出会ったのが、「公民連携事業」

・休日に市長の随行で公民連携事業セミナーに出席
・その後市長より着手命令により、そこから取り組み始めた ↗

↘

・総合戦略の策定を命じられ、公民連携事業に取り組むため横断的組織の設置に向けて必要な対応に着手
・大阪府でいち早く総合戦略を策定し、推進組織を発足し、その組織の長となる

・横断的組織の設置や条例制定のためには、議決が必要であり、議員との関わりで必要な対応を進めた

・ただ、進める中で、自分が主体者になるのは無理と気づき、公民をつなぐエージェントを創り、公民連携事業を進めやすい環境づくりに携わることに転換

・改革を進めることは行政内では簡単なことではない
・庁内力学、既得権益との調整、議会対応、地元住民の理解など乗り越えるべき壁は多い
・中でも最大の壁は「組織」
・公務員組織の一員、駒、杭であることを忘れず

・組織の駒ではあるが、俗人的な固有名詞としての動き
・個が強すぎると組織からはじかれる、個を消すと住民から公務員的だと疎まれる
・このバランスを取っていきたい

©2021　特定非営利活動法人　自治体改善マネジメント研究会

## 《グループ対話》

東さんのお話を受け、参加者の皆さんでグループに分かれ、対話会を行いました。
グループ対話で出た意見をもとにグループ対話終了後に、質問タイムを行いました。

Q
・組織のバランスの取り方はどうやっているのか、気をつけていることは？
・議員との付き合いは？
A
・全方位的になると、多目的の無目的となってしまう
・議員との繋がり　キーとなる方とのアプローチ、順番は気を配って対応している
・全員賛成となるのは難しい、議決を受けさえすれば良い

Q
・大東市に住んでいないにもかかわらず、その大東愛は、どうして、どうやって生まれたの？
A
・愛ではなく、プロ意識、職人意識
・プロとして住民自治の向上

Q
・偉くなると首長・議会・民間からの信頼は高くなると思うが、組織の中では部下に動いてもらわないといけない
・部下に自分のやりたいこと、意志を伝え、実行、行動してもらう上で工夫されていることはあるか？
A
・部下には新しいことに取組むときは、ビジョンと目的意識を伝える
・イソップ寓話「3 人のレンガ職人の話」の話のように

## 《感想共有》

最後に、今回の研究会に参加した皆さんから、ご意見、感想をいただきました。

✓ ビジョン目的持たずに仕事せざるを得ないことが多い中、プロ意識を持つことの大切さを教えていただいた

✓ 我を出してやらなければならない部分と、組織の一部として仕事を全うする、役目を果たす事の覚悟を聞かせていただいた

✓ 組織としての駒であると同時に、プロ意識を持っていること励みになった

✓ 尖ったことをやって誹謗中傷を受けても施策を進めるためには、ビジョンを持って共感者を得て進める
✓ 自分の組織でビジョン示して、自分なりの信頼度を高めていきたい

✓ 私も外で住民と進めてきたことを、組織に持ってきても賛同を得られず困難なことがこれまで多くあった
✓ 幹部職員からも賛同得られないこともある。
✓ サポートを得ることもそうだが、どこまで譲れず、どこまでならこちらも折れるところか考える必要があると感じた

✓ 議員、民間、組織に対し、そこまでやっていいのかということ面白く聞かせていただいた
✓ 筋が通っているからこそ、ここまでやってきた所以か
✓ 自分も周りに流されず筋を持っていきたい

## 《点から面へとつながるステップアップの機会》

この「つながり研究会」は、これまで「自主研」「事例研究会」などに参加する有志が、いきなり組織で公式の「チーム経営研究会」を立ち上げるには及ばない時に、点と点をつないで線にする一歩を踏み出すための場とするイメージです。

一匹狼のとんがり人材の“点”ではなく、「新・事例研究会」もしくは「チームづくり研究会」の“線”から、組織マネジメントに取り組める有志のすそ野を広げ、別途首長を補佐する参謀として首長へのアプローチを図りながら、組織として「チーム経営研究会」の“輪”から、面にする機会を増やしていく流れをつくっていく、点→線→輪→面のステップアップしていく機会を設けてきます。

自治体改善マネジメント研究会では、今後もこのような機会を設けていきますので、是非皆さんも気軽に参加してみてください。

（文責：長野県須坂市　寺沢）

©2021　特定非営利活動法人　自治体改善マネジメント研究会